

「JPシート解説 最高値／安値、最安値／高値」

JPシートに登録されている「最高値／安値」、「最安値／高値」の項目について解説していきます。

JP法株価分析システムは、Windows版の前、MS-DOS版がありました。

このMS-DOS版のJP法に今回解説の項目があり、Windows版にそのまま移植しました。

MS-DOSからWindowsへの移行期（1995年から2000年頃）で、今まで使っていたJPシートの内容がなくなるのは困る。という事から手を加えずそのまま使えるようにした次第です。

しかし、その当時から20数年が過ぎ、MS-DOSのJP法を知っているユーザー様も減少し、どのように使っていたかが、分からなくなりつつあります。

そこで今回、説明しようと思った次第です。

最高値／安値（周期を52にするとMS-DOS版のPD2の事）

内容・・・過去何日間（最高値周期）の最高値÷当日安値

買い場を探す時に使用

最安値／高値（周期を52にするとMS-DOS版のSPD2の事）

SPD2の最初の「S」はSELL、売りの意味です。

内容・・・過去何日間（最安値周期）の最安値÷当日高値

売り場を探す時に使用

今回の解説項目

コメント		今回の解説項目	
短期弾性値 以上	出来高倍率 以下	最高値・最安値 周期	出来高水準 周期
短期弾性値 以下	最大出来高 周期	最高値／最安値 以上	出来高水準 以上
中期弾性値 以上	最大出来高か? 向き	最高値／最安値 以下	短中M間カイリ 以上
中期弾性値 以下	短弾 向き	最安値・最高値 周期	MACD①(4-20) 向き
長期弾性値 以上	中弾 向き	最安値／最高値 以上	MACD②(5-20) 向き
長期弾性値 以下	長弾 向き	最安値／最高値 以下	短M／中M 位置
MAV指標 以上	MAV 向き	最高値 周期	生中弾／中弾 位置
MAV指標 以下	短期M 向き	最高値／高値 以上	生長弾／長弾 位置
短期M指標 以上	中期M 向き	最高値／安値 以下	株価水準 以上
短期M指標 以下	生短弾 向き	最安値 周期	株価水準 以下
中期M指標 以上	生中弾 向き	最安値／高値 以上	
中期M指標 以下	生長弾 向き	最安値／高値 以下	
生短弾性値 以上	短コスト 向き	長コスト／前日安値 以上	
生短弾性値 以下	長コスト 向き	長コスト／前日安値 以下	
生中弾性値 以上	短／長コスト 位置	長コスト／前日高値 以上	
生中弾性値 以下	短コスト上・下抜け	長コスト／前日高値 以下	
生長弾性値 以上	長コスト上・下抜け	生短弾／短弾 位置	
生長弾性値 以下	短長DC後日柄 以上	終値／高値 以上	
最安値 周期	短長DC後日柄 以下	終値／高値 以下	
最安値比率 以上	短長GC後日柄 以上	終値／安値 以上	
最安値比率 以下	短長GC後日柄 以下	終値／安値 以下	
最安値日柄 以上	短弾／中弾 位置	新値 周期	
最安値日柄 以下	中弾／長弾 位置	安値更新本数 以上	
最高値 周期	短弾／長弾 位置	安値更新本数 以下	
最高値比率 以上	陽線・陰線?	高値更新本数 以上	
最高値比率 以下	高値切り上・下がり	高値更新本数 以下	
最高値日柄 以上	安値切り上・下がり	足取り・5本設定	
最高値日柄 以下	RJ指数 以上	ハイ・ローバンド 周期	
出来高倍率 周期	RJ指数 以下	ハイ・ローバンド 向き	
出来高倍率 以上	RJ指数 向き	短中M間カイリ 以下	

MS-DOS版では周期が「52」で固定でした。

MS-DOS版の当時（1988年頃から1995年 Windows版は1996年）、JP法では週足分析がメインで、周期「52」という事は、1年間のチャートの波動を見るという事です。

そして、仕掛けたら半年（26週間）は、様子を見ましようという分析でした。
※検証期間などの設定をそうしていました。

MS-DOS版ではこうなります。

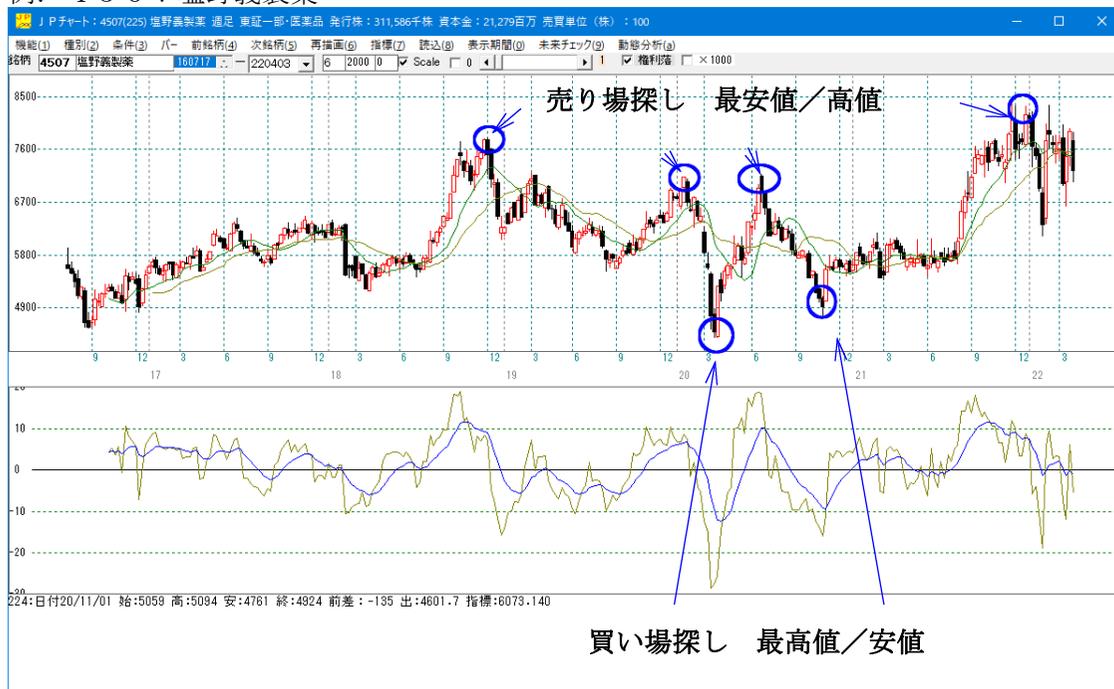
最高値	周期	52
最高値/安値	以上	
最高値/安値	以下	
最安値	周期	52
最安値/高値	以上	
最安値/高値	以下	

基本的な考え方は、買い場を探す場合「最高値/安値」を使う、
売り場を探す場合、「最安値/高値」を使う、です。

チャートを見て、株価が底近辺にあるポイントでは、「最高値/安値」を、
天井近辺にあるポイントでは「最安値/高値」の数値に注目します。

具体的には、こういうイメージです。

例. 4507 塩野義製薬



最高値からどのくらい下がっているのか→買い場探し 最高値/安値
・もうそろそろ底打ちだろう、という考え

最安値からどのくらい上がっているのか→売り場探し 最安値/高値
・もうそろそろ天井だろう、という考え

周期「52」にして、読み取りをしてみましょう。

条件→読み取り 周期「52」にしたシート番号を入力



拡大

最高値/安値	[0.00]	最高値/安値	[1.20]	終値/高値	[0.92]	安値更新	[0]
最高値/最高値	[0.00]	最安値/高値	[0.89]	終値/安値	[1.03]	高値更新	[0]

この数値を見て、チャート上、底近辺のポイントなら、「最高値／安値」の数値をシートにセットします。

数値が大きければ、大きいほど、底になります。
 なので通常は「以上」の項目に数値をセットします。

天井近辺のポイントなら、「最安値／高値」の数値をシートにセットします。

数値が小さければ、小さいほど、天井になります。
 なので通常は「以下」の項目に数値をセットします。

買いと売りのシートを各々作りますので、シートは2つ使います。

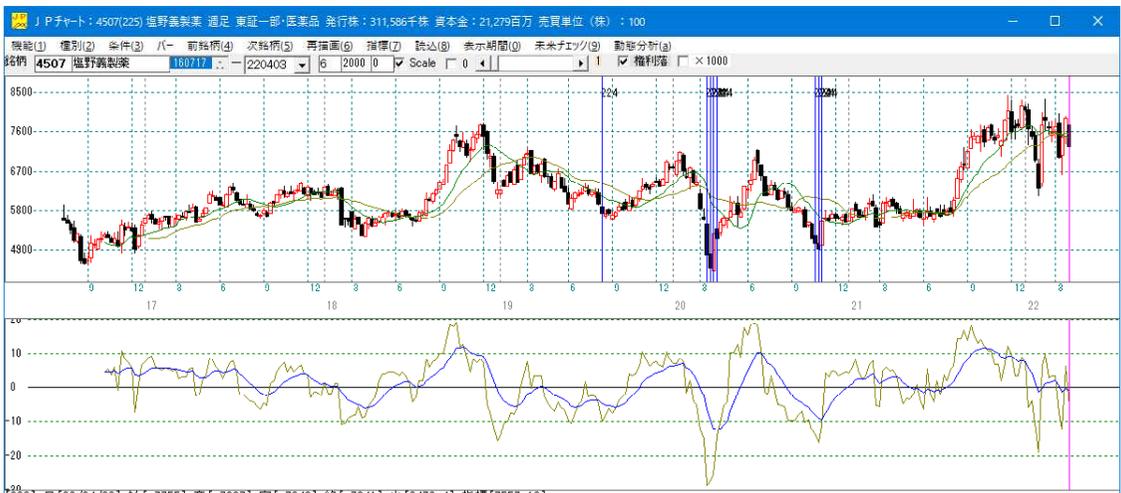
例えば、224番シートは買い、225番シートは売りとかです。

■ 買いのシート

224番 買いのシート 最高値周期「52」 最高値/安値 「1.4」以上

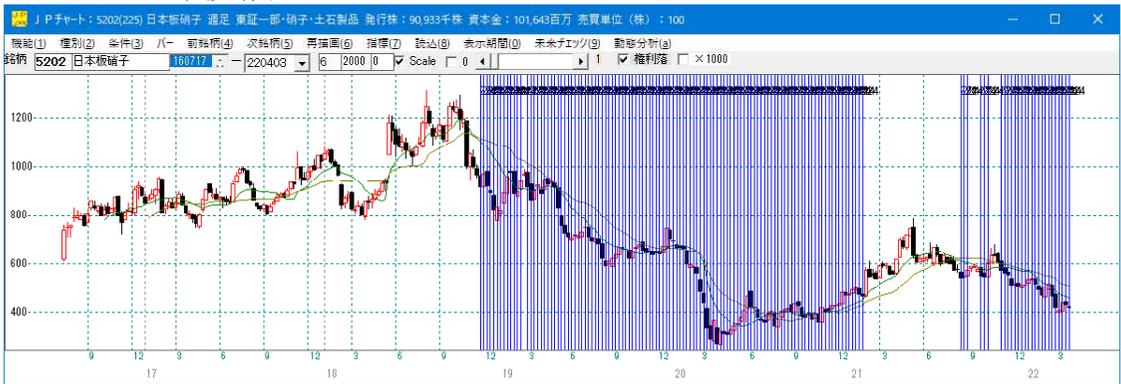
最高値	周期	52
最高値/安値	以上	1.4
最高値/安値	以下	
最安値	周期	
最安値/高値	以上	
最安値/高値	以下	

条件チェックで「224」番



他の銘柄だと、こうなります。

5202 日本板硝子



塩野義製薬は良くても、日本板硝子ではこのままでは使えません。もっと条件をきつくする必要があります。

シートを作る上で重要なのは、その銘柄だけに特化したシートなのか、全般の銘柄にそこそ当てはまるシートなのか、それを決めないといけません。

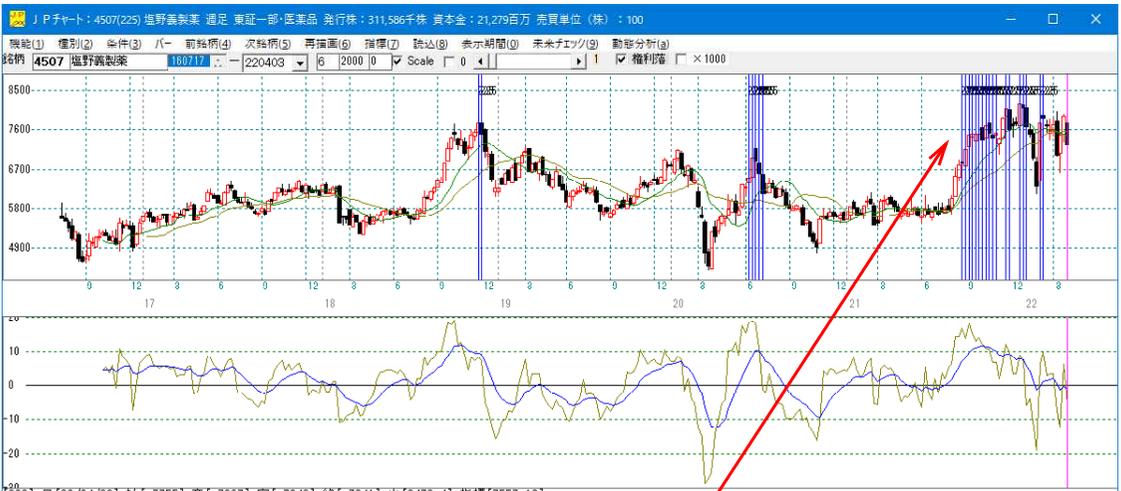
注目銘柄が決まっている場合は、その銘柄に特化したシートを作るのがいいでしょう。

■売りのシート

225番 売りのシート 最高値周期「52」 最安値／高値 「0.67」以下

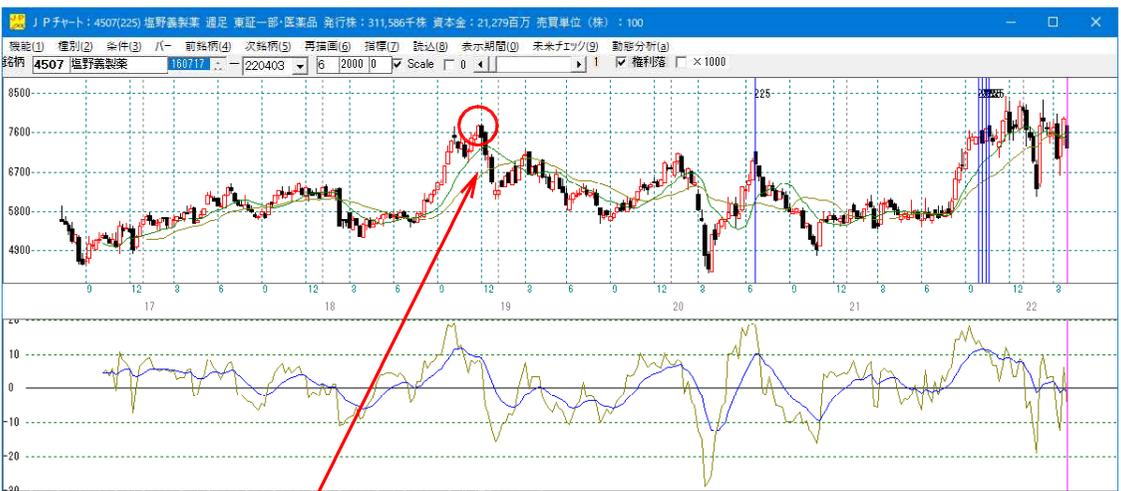
最高値	周期	
最高値／安値	以上	
最高値／高値	以下	
最安値	周期	52
最安値／高値	以上	
最安値／高値	以下	0.67
最安値／前日安値	以上	

条件チェックで「225」番



売りサインとしては、都合の悪いところにもサインが出てしまいました。

「0.62」以下とするとこうなります。



サインが出て欲しい他のところが消えてしまいました。

このようにサインを作ることは一筋縄ではいきません。少しずつサイン作成になれていくしかありません。

今回は、周期を「5 2」としてみましたが、昔と今とでは相場の値動きが違いますから、例えば、半年なら「2 6」、三ヶ月なら「1 3」として作成したほうがいいのかもしれない。

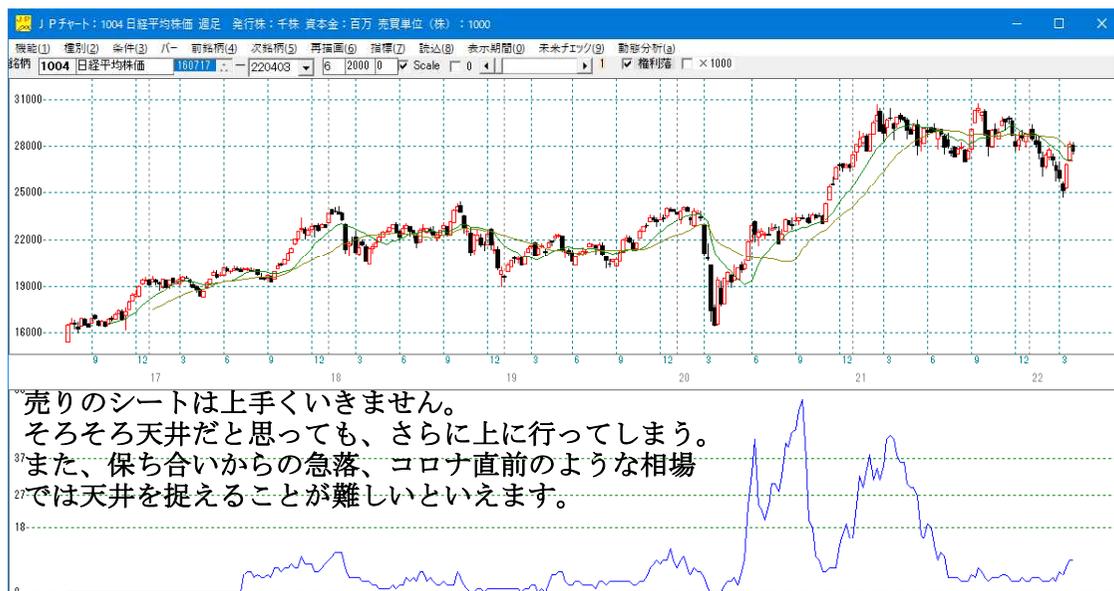
合格数から判断する相場の底値シート 数が多い時が底

最高値周期「1 3」 最高値/安値 「2」以上
 検索対象は、2 2 5採用銘柄



合格数から判断する相場の天井シート 数が多い時が天井

最安値周期「2 6」 最安値/高値 「0.6」以下
 検索対象は、2 2 5採用銘柄



買い場より売り場を当てるのが難しいと分かる一例ですね。